

3 番 和 田

受付番号第3号、質問議員3番、和田成功。

件名、災害に強い森林づくりと林業の活性化を。

10月12日、当町にも大きな被害をもたらした台風19号。倒木・土砂流出などによる停電や断水及び計画断水の長期化など、記憶に新しいところである。

約9割が森林地域の自然豊かな山北町として、防災・減災の観点からも土砂災害防止機能を高度発揮できる災害に強い森林整備・森林管理及び、木材等の利活用が必要であると考え質問する。

①山北町の森林において、未整備林・放置林や、切り捨て間伐材等がもたらす災害への影響について、どのように考えているのか。

②森林整備において、山林を活用する「地方創生の鍵」として期待され、採算性と環境保全を高い次元で両立する持続的森林経営でもある自伐型林業が、防災・減災対策にもつながると思うが、町として自伐型林業を推進しては。また、林業の担い手・人材育成などをどう考えているか。

③切り捨て間伐材等を再生可能エネルギーとして活用するためにも、木質バイオマスボイラー等の導入も必要であると思うが。町として長期的な視野で、再生可能エネルギー導入の調査・検討を進めると言っているが、その進捗状況は。

議 長 答弁願います。町長。

町 長 それでは、和田成功議員から「災害に強い森林づくりと林業の活性化を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「山北町の森林において、未整備林・放置林や、切り捨て間伐材等がもたらす災害への影響について、どのように考えているのか」についてであります。森林は国土の保全、水源涵養、地球温暖化防止や木材等の林産物の提供など、多面的な機能を有しており、このような機能を継続的に発揮するためには植栽、保育や間伐などの森林整備を適切に行うことが必要とされております。しかしながら、近年は私有林において、森林の手入れ不足により荒廃した森林が増加しており、山地災害防止や水源涵養などの森林の持つ公益的な機能の低下が懸念されております。御質問の未整備林・放置林や、切り捨て間伐材などが災害にどの程度の影響を与えているかは定かではありませんが、森林の持つ公益的な機能を発揮するためにも、

適切に森林を管理していくことが必要であると考えております。

次に、2点目の御質問の「町として自伐型林業を推進しては。また、林業の担い手・人材育成などをどう考えているか」についてであります。自伐型林業は環境に与える負荷が比較的小さく、適切な施業を実施することにより森林が本来持っている機能を回復するのに有効な手段であると言われております。このため、町では、本年5月に策定した山北町農村振興基本計画において、中長期的に取り組む林業振興施策の一つとして自伐型林業の育成を掲げております。

しかしながら、近年は木材価格が低迷しており、木を伐採しても費用に見合う販売収入が得られない状況が続いており、県では間伐材搬出促進事業として補助金を支出することにより、費用負担の軽減に取り組んでおります。このような状況を踏まえ、当面は、森林環境譲与税を用いた林内路網の改修や、施業に伴う人家周辺の防災対策など、喫緊の課題の解決に向けて取り組むことが重要であると考えております。また、林業の担い手育成について申し上げますと、現在、県では、「かながわ森林塾」を開講し、新規就業者の育成、確保と従事者の技術向上について体系的に推進しており、町でも移住者向けの相談会において、この「かながわ森林塾」のPRなど、県と協力して事業を推進しております。

さらに、町では平成14年度より「森林ボランティア実践事業」を実施し、森林整備による森林の活性化や多面的機能の理解を深める取り組みも推進しております。今後についても、県や関係機関等と連携し、林業の担い手の育成を推進してまいります。

次に、3点目の御質問の「切り捨て間伐材等を再生可能エネルギーとして活用するためにも、木質バイオマスボイラー等の導入も必要であると思うが、町として長期的な視野で、再生可能エネルギー導入の調査・検討を進めると言っているが、その進捗状況は」についてであります。御承知のとおり、再生可能エネルギーは、太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱等を利用しエネルギー変換するものであり、今日の技術進歩による設備機器等の小規模化や高性能化により、企業や自治体等でも導入が進んでおります。

町では、新エネルギービジョンに基づき、再生可能エネルギーの導入につ

いて、研究してまいりましたが、現在は、「さくらの湯」と「ぶなの湯」の給湯システムに木質バイオマスを導入することについて検討しております。木質バイオマスボイラーには、使用する燃料の種類が、ペレット、チップ、薪の3つに区分され、それぞれ給湯システムが異なります。燃料により、供給源の確保や施設改修等が変わりますが、最近では、新たに燃焼時の排ガス処理や焼却灰の処分等が課題となっているため、現在、一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会に研究を依頼しているところであります。

また、マイクロ水力発電についても検討しており、本年度中には、方向性を示したいと考えております。これは、水路に小型の水力発電設備を設置し、売電するとともに携帯バッテリーに蓄電し、非常時用の在宅医療機器や夜間照明等の電力供給に役立てるもので、事業者の環境への社会貢献として実施するものです。

事業者が再生可能エネルギーを通して、環境配慮事業の一環として、自治体と連携することで、双方の利益にもつながるSDGsの基本理念に沿ったものとして、私も大変期待をしているところであります。

このように、再生可能エネルギーの活用につきましては、費用対効果だけでなく、その波及効果や付加価値等を総合的に検証し、取り組んでいかなければならないと考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 それでは、御答弁に対して再質問させていただきます。

まず、①の質問に対して、実際に先日の台風で土砂が流出していますけど、流出した土砂等で河床が上がっている現状は把握されているとは思いますが、河川の氾濫の危険性について、町として、どのように考えているか、お答えいただけますか。

議 長 町長。

町 長 今回、台風19号については、非常に大勢の方から心配いただき、また、非常に大きかったわけですから、国のほうでも、ダムについても、ああいうような新たな指針を出したところであります。山北町にとりましては、やはり川の氾濫については、非常に危惧しておりまして、水位計等を、今後、県のほうにさらに多くつけていただくよう要望しながら氾濫等は防いでいきたい

というふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 そのように整備されていくことと思いますけれど、林業振興として、森林の持つ水源涵養機能など、公益的機能の向上を図ることを目的とした森林整備を実施していただけることは理解しておりますけれど、第5次総合計画にもある災害に強い、安心・安全のまちづくりを推進している当町として、森林の公益的機能の中でも吸水力、土壌の浸食や流出などの抑止力、これが十分発揮できるような適正な森林整備及び森林管理に積極的に取り組む必要があると思うのですが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるとおりですね、こういうふうな今の現在に至ったのには、やはり長い間の木材の価格の低迷であるとか、また、私有林の皆さんの手入れを、価格の低迷がございますのでしてこなかったという、長期的なことがございます。それに対して、県のほうでも水源環境税、あるいは国のほうの森林税、さまざまなことが今行われております。山北町にとりましても、広大な面積の森林を有しておりますので、これについては、まずは人命というようなことがございますので、人家の近隣の森林に対しては、やはり危ないところは切らせていただくようなところから、植えかえ等をしていきながら、県の施策と整合性がとれるような、そういったような安心・安全をやっていきたいというふうに思いますけども、とにかく、こういうふうになった時間の経過と、これを解決していく時間は同じようにかかるのだらうと思いますので、そういった意味では長い形ですけれども、対応してまいりたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 よくわかりました。

続きまして、②の質問に対してですけれど、「自伐型林業を進めては」という提案をさせていただきましたけれど、現林業体制と自伐型林業の両立が必要であると考えております。自伐型林業は、林業の活性化の一つのツールとして、また、SDGs持続可能な開発目標としても有効な林業スタイルであるということだと思います。そして、林業の活性化により森林整備、森林

管理が行き届き、防災・減災につながると考えておりますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 お答えさせていただいたとおり、町としても自伐型林業を皆さんにやっていただければ、防災・減災、あるいは、またいろいろな自然環境に対しても有効だというふうには思っております。しかし、そのためには担い手、あるいは人材育成が必要でございますので、そういった意味では、それらに対しても長期的に対応してまいりたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今後も対応していかれるということで。

続きまして、②の「林業の担い手・人材育成について」でありますけれど、自伐型林業ととても相性がいいとされる、総務省が2009年から人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、定住・定着を図ることで地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度であるが、地域おこし協力隊、この制度を活用されてはと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 和田議員がおっしゃいますように、地域おこし協力隊なのですけれども、山北町でも限られた地域と、多分都市部から来られた方には使える補助金になります。ただ、この補助に対しては1年以上3年未満という限定されている補助になりますので、3年間については補助できるのですけれども、自伐型の方を呼んで、その方が3年間で自立ができるかということ、今の木材単価等を考えると、非常に厳しい部分がございますので、簡単に、この事業に自伐型で参加するというのは、行政として、かなり危険が伴うので、簡単にやろうというところまでのスキルがあるかということ、今現在では、ちょっと難しいのかなというふうに思っているのが現状でございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今の御答弁、理解いたしますが、地域おこし協力隊制度を活用することによって、地域再生でしたり、山間部地域の活性化からの町のにぎわいにも寄与して、定住対策にもつながるといような期待もできると思うので、まさ

に、これは当町の課題解決に有効な手段ではないかと、継続してやるのが難しい、危険リスクが伴うのはわかっておりますけど、ぜひ、ここで取り組む方向で調査研究等をしていただきたいと思いますと思うのですけれども、いかがでしょうか。

議 長
町 長

町長。

その制度だけではなくて、林野庁とか、さまざまところで、今いろいろな制度を、我々も提案をいただいております。その中で、山北町に一番合ったものがどうであるか、そして、また実際に国のほうでは3年とか、そういったような補助制度が多いものですから、それを超えても町としてやらざるを得ないわけですから、そういったことが可能かどうか、そういったようなことを見きわめながら、和田議員がおっしゃるようなことも含めながら、さまざまな国の制度の中で、山北町に有効なものを選んでいきたいというふうに思っております。

議 長
3 番 和 田

和田成功議員。

今後取り組んでいかれることを期待して、次に進めていきたいと思います。

③の質問に関してですが、第5次総合計画でも森林資源の利用を促進することにより、まちづくり・森づくりを主体とした地域振興を町民と進めていく必要があるというふうに言われております。そして、現状、木質バイオマスボイラー等を検討されているということで、「さくらの湯」「ぶなの湯」等で、給湯システムとして使われるような検討をされているということでしたが、燃料として、ペレット、チップ、薪の3種類ありますけれど、私の調べたところによりますと、チップ、ペレットでは地元で大量に生産し、いろんな施設で需要がないと、なかなか成り立たないというような調査結果もあるようなので、ここでは、薪型の木質バイオマスボイラー導入はどうかということをご提案させていただきたいと。また、「ぶなの湯」でしたら、1台から2台の導入で運転が可能ではないかというふうな情報も得ておりますし、薪ですと、薪を投入する人材も必要になって、これが地域の雇用創出にもつながると、薪ボイラーに関しましては、現状のランニングコストに比べて10%から20%を削減できるというような調査結果もあるようなので、この辺、積極的に取り組まれることを期待しますが、いかがでしょうか。

議 町 長 町長。

議 町 長 私のほうでは、まず基本的に、今「さくらの湯」と「ぶなの湯」のほうで給湯について、バイオマス等を研究しております。その中で、薪については、かつて共和地区で薪のボイラーをやりましたけども、やはり薪の材料の確保もさることながら、それを投入するための人材とか、さまざまなものがございまして、自動化するのが非常に難しいというようなことだというふうに認識しております。ですから、薪については、今災害用の薪の需要とか、そういったお話もいただいておりますので、薪はそういったようなことで需要としてはあるということを確認しておりますので、そういったものは別のところに使わせていただいて、ボイラーとしては、やはりペレットとかチップのほうで自動化できるという意味では有効ではないかというふうに思っておりますので、今現在視察に何回か行かせていただいたところも、ほとんどがペレット型であったり、そういったようなことが多いものですから、そういったようなことで可能かどうかということは今検討しているところでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今の御答弁で、ペレットを視野に入れているというお話でしたけれど、薪でも十分可能かと思うので、薪のほうも視野に入れて調査していただければと思います。再生可能エネルギーですので、エネルギーの地産地消や持続可能な地域循環型林業の構築を図るためにも、ぜひ、こういった木質バイオマスボイラー等の導入は積極的に御検討していただきたいと思います。

最後に、まとめをさせてもらって、今までの町長の御答弁の中で防災・減災につながる適正な森林整備、森林管理及び間伐材や再生可能エネルギーの活用について、今まで以上に積極的に取り組まれることを期待して終わりにしたいと思いますが、最後に今後の取り組みとして、優先順位など、町長の考えがおありでしたら、お聞かせいただきたい。

議 町 長 町長。

議 町 長 まず、間伐材等の切り捨て間伐等をまた見させていただいて、今現在、私も裏山とか、いろいろなところに森林がございます。要するに1回の雨で、もちろん流れて土砂等が来て、今の台風19号なんかそういうようなことにな

るんですけども、私を見た感じでは、やはり事前に少しずつ枯れる沢というんですか、雨の道筋ができていて、そして、それが大雨のときに大きな脅威となってきたという事で、それには、間伐等も当然影響があるというふうに思っておりますので、そういった意味では、災害に強い山づくりというのは、どうしても我々は欠かすことのできない方法だろうというふうに思っております。

それから、先ほど、薪ボイラーを指定したわけではなくて、今現在、私のほうとしては、「ぶなの湯」「さくらの湯」については、やはり自動化ができるペレットなりが有効ではないかというふうに思っておりますけれども、それ以外の施設について、また薪ボイラーというようなことも、当然、視野に入れながら考えていかなければいけないというふうに思っております。いずれにいたしましても、9割以上が山林ということで、そうして、毎回毎回、こういうような台風等で雨が降ると、どうしても土砂が出てくると、その原因については、やはり森林が非常に荒廃しているということが原因だというふうに思っておりますので、それらを防ぐ手段を、皆さんの安心・安全の生命を守るというのが、私の一番の義務でございますので、そういった意味では、今後とも皆さんのお力をかりながら、さまざまな方法を使って、安心・安全なまちをつくっていきたいというふうに思っております。